

のアルバム

▼7月14日 野洲文化小劇場



再生可能エネルギーを活用

(株)村田製作所、(株)スマートエナジー研究所、スターエンジニアリング(株)のご協力で、「スマートエネルギーシステム」を野洲文化小劇場のロビーに設置し稼働式を行いました。

このシステムは、太陽光パネルで発電された電気を蓄電システムなどと連動させ有効利用する近未来のエネルギーシステムです。公共施設に設置し、実際に運用試験・データ収集などを行い電力の有効活用に努めます。

2015 滋賀びわこ総文開催!

高校生最大の文化の祭典と呼ばれる「第39回全国高等学校総合文化祭」が7月28日から8月1日まで開催され約20,000人の生徒が参加し本市では、美術・工芸の部門開会式とマーチングバンド・バトントワリング、吟詠剣詩舞が行われました。

美術・工芸では部門開会式に引き続き滋賀県出身の漫画家森田まさのりさんの講演が行われました。全国から1,596人が参加したマーチングバンド・バトントワリングでは、華麗な演技・演奏で魅了されました。

詩吟と剣舞・詩舞が融合された日本古来の伝統芸能「吟詠剣詩舞」は、日本独特の風情を舞台上で表現されていました。



7月28日総合体育館



8月1日野洲文化ホール

全国大会・近畿大会へ

全国大会等に出場する選手の激励会が行われました。

陸上競技の砲丸投で全国大会・近畿大会へ出場する中村涼汰さん(中主中)、近畿大会に出場する男子バスケットボールチーム(野洲中)の青地朝哉さん、三浦雅史さん、田中龍吾さん、女子ソフトテニスダブルス(野洲北中)の遠藤萌々香さん、伊駒咲良さん、体操の小野真奈さん、小野美涼さん(野洲北中)、水泳の田中裕貴さん(野洲北中)です。

選手を代表して中村涼汰さんが「昨年より上位を目指してがんばる」と力強く抱負を語りました。

※小野真奈さんは近畿大会で上位入賞され全国大会に出場されます。

▼8月3日 市役所



歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

132

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

すえきおおがめ 古墳時代中期の須恵器大甕

現在、歴史民俗博物館で開催中の夏期テーマ展「野洲の古墳時代」（9/27まで開催）では、野洲市およびその周辺の古墳や集落跡から出土した遺物を展示しています。このなかで市内の市三宅東遺跡の溝跡から出土した須恵器の大甕は、口径31cm、器高62cmを測り、淡灰色を呈するもので、形態・製作手法的特徴から5世紀代の古い段階のものと判断されます。古墳時代中期に朝鮮半島から工人と共にその製作技術が導入されたもので、著名な和泉陶邑古窯址群（大阪府堺、和泉、岸和田、大阪狭山の4市にまたがる窯跡群）などで生産が開始されます。

野洲市近隣には、野洲市と蒲生郡竜王町とにまたがる鏡山に鏡山古窯址群があります。これについては、『日本書紀』垂仁天皇三年の条に「近江国の鏡村の谷の陶人は、天日槍の従人なり」とあり、当地における須恵器生産の一端を窺い知ることができますが、その操業期の主体は6世紀代にあり、5世紀に遡る窯跡は未だ確認されていません。したがって、今のところこの大甕は他地域で生産、搬入された可能性が高いと考えられています。

大型製品である大甕は、成形段階で体部や底部の器壁調整（空気抜きも含む）として内面から当て具をあてがい、外面から叩き板で叩きしめます。地方窯が整備される6世紀代には、当て具等に施された紋様（同心円紋・青海波紋など）などの痕跡を残したままで、焼成されるのが一般的ですが、初期段階5世紀代においては、叩きの痕跡をナデにより丁寧に擦り消すことがあります。本例はまさにこれに該当するもので、出土例は少なく、希少なものといえます。他にも渡来人の存在を想定させる韓式土器や埴輪、ヘラ描き土器なども展示していますので、ぜひご覧ください。（博物館専門員 山田謙吾）



市三宅東遺跡出土 須恵器大甕



防災に備え常に訓練

野洲市消防団が、滋賀県消防学校（屋外訓練場）で行われた第50回滋賀県消防操法訓練大会（ポンプ車の部）で準優勝しました。

今年2月28日から「優勝あるのみ！」を心に誓い自主訓練を開始し、5月10日から本格的に訓練を重ねてきました。当日は、大勢の関係者からの激励と応援を背に、訓練の成果を見事発揮しました。

▼8月2日 東近江市



魅力ある農業をめざして

市内の農産物や農業をアピールし米や野菜などの消費拡大を目的に青年農業者クラブ（小森貴夫会長）が「ひまわり迷路」を開設しました。

この日は、多くの観光客が迷路内のクイズに参加し、野洲市産のキュウリなどを持ち帰っていました。

▼8月8日 野田

